
透析療法指導看護師の役割と課題

近江 薫、保坂るり子、松岡淳子

宮形 滋^{*}、原田 忠^{*}、木暮輝明^{*}

中通総合病院 血液浄化療法部、同 泌尿器科^{*}

A role and the problem of the dialysis leading nurse

Kaoru Oumi , Ruriko Hosaka , Junko Matsuoka

Shigeru Miyagata ^{*}, Tadashi Harada ^{*}, Teruaki Kigure ^{*}

Nakadori General Hospital blood purification medical treatment part ,

Urology department ^{*}

<緒言>

現在、透析患者は27万人を超え、救命、延命の治療から患者個々の生活の質を維持する治療へ変わっている。そのような中、質の高い医療の提供、チーム医療の確立とそれぞれの専門性の高さが要求されてきている。日本腎不全看護学会は腎不全領域における専門的な看護師の育成を重要視してきた。

5学会認定「透析療法指導看護師」Dialysis Leading Nurse（以下DLNと略す）は平成20年9月現在、全国で554名となった。私は今年資格を取得したが、DLNの紹介も含めその役割と課題についてまとめたので報告する。

<認定制度について>

1. 「透析看護認定看護師」

日本看護協会が認定する。入学試験に合格したものが6ヶ月間の研修を受け、研修修了者が認定試験を受ける（平成20年11月現在全国で74人）

2. 「透析療法指導看護師（DLN）」

5学会（日本腎不全看護学会・日本透析医学会・日本泌尿器科学会・日本腎臓学会・日本移植学会）が合同認定。以下の条件を満たしていれば仕事を続けながら受験することができる。

- 1) 看護師免許を有すること
- 2) 日本腎不全看護学会正会員歴3年以上
- 3) 腎不全看護領域実務経験3年以上
- 4) 看護実務経験通算5年以上
- 5) 透析看護領域実践報告3例提出
- 6) 受験資格30ポイント以上取得していること

< DLN の行動目標 >

日本腎不全看護学会では DLN の目標を

1. 個別的ケアの実践と評価ができる
2. 知識・技術の習得で安全・安楽な治療環境を提供できる
3. 効果的な長期療養生活の支援ができる
4. 実践的モデルとなり、医療チームへの指導ができる
5. 臨床看護の質向上に主体的に取り組む

とし、臨床における看護実践能力の向上を啓発している。

< DLN 試験を受けるまでの経過 >

透析室勤務 9 年であるが、看護学生実習の指導の際、指導の難しさと透析に関する知識不足があったため学習の必要性を感じ、透析技術認定士を取得した。専門的な知識を深めていくと「もっと良い看護がしたい」という欲求につながり、透析看護のおもしろさ、奥深さを感じ DLN 認定を目指し平成 17 年、日本腎不全看護学会に入会した。9 年間で透析医学会や東北腎不全研究会などでの発表、日本腎不全看護学会などの参加で 30 ポイント達成し、平成 20 年 1 月、受験し資格を取得した。

< 受験資格取得ポイント >

受験資格に必要なポイント対象を示す（表 1）。

受験資格取得ポイント

ポイント対象		ポイント
5学会学術集会総会	参加・発表・共同	5・5+3・5+1
	ワークショップ・シンポ・パネル座長	各3
	一般演題・ポスター座長	各2
5学会会誌論文掲載	筆頭研究者・共同	8・3
透析技術認定師		3
透析従事者研修終了		2
DLNパワーアップ研修	1日参加	5
JANN教育セミナー	1日参加	4
本学会教育セミナー講師	1講座	8
地方会	参加・発表・論文掲載	各1
	一般演題座長	2

表 1. 受験資格取得ポイント

< DLN 試験について >

試験内容は「透析看護」（日本腎不全看護学会編集）というテキストから出題される。内容としては腎不全トータルケア概論、腎不全患者の身体機能、腹膜透析関連技術など基礎的な知識のほか、患者、家族の理解のための理論（セルフケア理論、家族理論、危機理論など）、また、患者教育に必要な知識と技術（カウンセリング技術・コミュニケーション技術など）、看護管理、倫理、リスクマネジメントなど幅広い内容である。

< DLN 認定取得後の活動 >

1. 職場での役割

教育担当と看護学生実習指導を行っている。患者指導では具体的にエビデンスに基づいた指導ができるようになった。DLNの更新に5年間で70ポイント必要であり、今まで以上に学会やセミナーへの参加が増えたことで新しい知識や技術を習得できている。

2. 職場以外での役割

秋田県のDLN連絡委員として東北地区教育セミナーの運営・企画に参加することで県外のDLNと交流する機会が増え、様々な情報交換ができ、視野が広がった。また、今年発足した秋田県腎不全看護セミナーの世話人として今後活動していく予定である。

< 今後 DLN の資格をどう活かすか >

安全で個々に合った透析治療の提供、スタッフや学生指導、チーム医療の専門職としての活動、他職種との連携、患者指導や家族ケアの充実などあげられるが、「透析療法指導看護師」として、患者に対しては「指導」だけではなく「支援」していきたい。また、職場においては「実践的モデル」となりたいと考える。

< 秋田県における DLN 育成の課題 >

1. 日本腎不全看護学会入会者数が少ない（表2）。

日本腎不全看護学会正会員入会状況およびDLN全国分布
登録者数：平成20年11月17日現在 DLN第1回～第5回合格者565名

都道府県名	登録者数	DLN	都道府県名	登録者数	DLN
北海道	103	15	滋賀県	41	7
青森県	11	1	京都府	68	14
岩手県	25	0	大阪府	224	31
宮城県	74	3	奈良県	31	6
秋田県	32	1	和歌山県	20	6
山形県	30	4	島根県	13	3
福島県	27	5	広島県	61	12
埼玉県	91	15	徳島県	41	9
千葉県	127	25	高知県	29	6
東京都	289	56	福岡県	194	35
神奈川県	175	35	大分県	22	3
愛知県	343	67	沖縄県	20	2

表2. 日本腎不全看護学会正会員入会状況およびDLN全国分布

-
2. 東北ではポイント対象地方会が少なく、ポイントが低いいためポイント取得まで時間がかかる。
 3. 更新時は5年間で70ポイントの取得が必要であり、継続的に学会参加と発表、研修へ参加していかなければならない
 4. DLN や認定看護師を目指す認識を持ってもらうことと環境を作ることが必要である。しかし総合病院では異動があり専門性を追求しにくい
- 以上のような課題があるが、今後の取り組みとして秋田県腎不全看護セミナーなどを通してDLNの紹介や、DLNを目指す看護師への情報提供をしていきたい。

<まとめ>

透析医療において看護師には専門性の高い知識と技術、判断力が要求され、実践的モデル、リーダーとしてのDLNの育成が必要とされている。今回、DLNの試験を受けるため様々な看護理論を学んだことで自信につながり、今後の自分の役割を認識することができた。資格をどう活かすかはこれからであり、DLNの行動目標を目指し、また秋田県の透析看護の質の向上を目指し学び続け活動していきたい。

参 考 文 献

- 1) 水附裕子：透析看護師のエキスパート育成に求められる要件、臨床透析 vol.22 no.3：25-31、2006
- 2) 佐藤久光：透析スタッフへの動機づけの教育、臨床透析 vol.22 no.3：33 - 38、2006
- 3) 遠藤ミネ子：地方（岩手）における透析療法指導看護師育成の課題、東北腎不全研究会誌 12-13、2007